

「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」のポイント

1. 「持続可能社会のための科学」（自然－人間共生のための科学）を、学研都市の重要な分野として位置づけ、全国に先駆け、総力を結集して取り組み

- ①「けいはんな 持続可能社会のための科学推進会議」を設立
- ②「持続可能社会のための科学」に関連した学術研究機関の誘致

2. 文化学術研究の拠点として、また科学技術創造立国日本の新産業の創出に向けて、多様な装置づくり

- ①研究開発型産業施設の立地、ベンチャー支援施設等の整備
- ②連合大学院構想の展開
- ③国立国会図書館関西館二期、第一次大極殿院の復原、平城遷都1300年記念事業
- ④国際戦略体制の構築・国際都市としての環境整備

3. 我が国初の創造的未來対応型都市の構築

～ 未来を拓く知の創造都市の形成 ～

- ①「未来を拓く知の創造都市」の実現
- ②「学術研究の実証実験」や「体験し学ぶ新たな観光」のように、多様な主体による創造の場の形成（フィールドの活用）

4. 学研都市の機能の発揮を目指した都市基盤・交通基盤の整備促進

～ 今後最も重要な10年間であるサード・ステージ ～

- ①事業中のクラスター整備の大幅な進展
- ②第二京阪道路、京都高速道路、山手幹線等の広域幹線道路、都市内連絡道路の供用

5. 「都市の建設」から「建設推進・高度な都市運営」へ大きくステップアップするための、学研都市を支える重要な3体制の構築

- ①学研都市を支え・推進する「学研都市有識者会議（仮称）」の設置
- ②「学研都市の一体化のための運営組織（仮称）」の設置
- ③学研都市全体を包括する産学官連携組織の構築